

令和2年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	平岡 善浩

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	対面授業だと講義環境や受講人数、教員のオーラルスキルの影響が大きい、遠隔授業の場合、講義方法(対話型/講話型/グループワーク)やオンライン講義ツール、教材の使い方が授業評価や授業改善計画に影響している。
	理由	遠隔授業の場合も、事前事後学習の効果、必要性が結果として出ている。講義時間中と事前事後学習の役割分担を明確にし、受講生に過重な負担にならないよう配慮しながら明確に課題を課すなど、こまめな理解度の把握が必要。
②	課題	遠隔授業(ライブ・オンデマンド)の場合、教室での対面講義よりも時間が延びるあるいは内容を短くしたりする傾向があったり、受講生も画面を注視して変化がない、集中力が続かないなど、講義方法についての改善が必要。
	理由	遠隔授業の「慣れ」の要因もあるが、対面講義の環境やノンバーバルコミュニケーションと違い、遠隔授業での情報伝達の特徴をつかむ必要がある。対話講義をそのままオンラインで流しても同等の効果があるか要検証。
③	課題	遠隔授業の場合の成績評価、試験方法をどうするか。
	理由	従来通りの対面での期末試験が実施できなかった場合、オンライン対応した成績評価方法(ルーブリック)の再検討が必要。また、こまめな理解度・到達度の設定、チェック方法の検討が必要と思われる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	今後、遠隔と対面を併用したハイブリッド型の講義が考えられる場合、シラバス構成や各回の授業方法、教材の質や課題の量、反転学習方法など、「講義時間中」と「事前事後学習」の位置づけを明確にすることがポイントである。受講生に過重な負担にならない程度の課題を効果的に出す必要がある。前期終了時点に行われた、学生および教員に対するオンライン講義に関するアンケートと合わせて分析が必要。
②	遠隔授業のシラバスや各回の授業構成に関する工夫の共有を行う。オンライン(あるいはハイブリッド)講義の場合、90分の「講話」として捉えるのではなく、例えば短いセクション(15~20分程度)に区切り、「知識提供」「課題説明」「演習」「対話・ディスカッション」など、セクションごとの位置づけをはっきりさせ、録画を活用するなど、試験的、効果的に実施された授業構成があれば、FDあるいは資料等で共有する。
③	遠隔対応の試験方法変更や、小テスト等を併用したもの、オムニバス科目やクラス分け科目などの、成績評価について事例を集め、情報共有する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ① 遠隔授業では、教科書の適切な使用もしくは配布教材を充実させるなど、講義時間内の板書・スライドに加えて事後学習できる教材提供が大切。
- ② 小テストやレスポンスカード記入、反転授業など、オンラインツールや配布教材を活用した、こまめな受講状況や理解度の把握が大切。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

今年度は群長あてに配布された前後期科目の授業改善計画に関する資料を、共有できる形に編集、他の講義の教材や講義方法に関する Good Practice の紹介、共有を行う。後期授業の改善計画と次年度前期授業の方針が定まった時点で、FDを行うのが望ましい。